

令和6年度 学力向上指導改善プラン

学校教育目標		夢や希望を持ち 心豊かにたくましく 共に生きる生徒の育成	
推進主体		管理職・研究推進担当・各教科代表による 研究推進委員会を中心に推進	
学力に関する前年度の状況・終年の課題等			
学力的状況	全国学力・学習状況調査結果の状況(国語、算数・数学に関する質問調査の結果も含む)	4月	
		学力的向上に向けての重点的な目標 (指標となる数値等)	成果となる目標 (成果目標達成のための具体的な手立て等)
		2～3月	
		年度末評価	
		(今年度の成果と来年度に向けた課題等)	
		評価	
学力的状況	国語	<ul style="list-style-type: none"> ○ほとんどの領域で全国平均より高い平均正答率であり、学力の定着が見られた。「情報の流れ」に関する事項は、全国平均を12%上回る良好な結果であり、喜見と模範など、情報と情報との関係について、多くの生徒が理解できている。 ◆漢字の書き取り問題の正答率が唯一全国平均を下回った。 ◆古典と比較して書く問題では、正答率が55%にとどまり、無解答率が全問題で一着高かった。文章の構成や展開、表現の効果等について、模範を明確にして考えることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元の最初に、身に付けるべき力と評価について明示し、すべての生徒が評価以上に近づこうと「わかる授業」を目指し、授業改善を行う。 ・黒板等に毎時間「めあて」「学習の流れ」を明示する。生徒に「学習のめあて」を意識させ、「学習の流れ」を明確にすることで、主体的に学ぶ姿勢を培う。また、「振り返り」を書くことで、学習内容の定着と学ぶ意欲の向上を図る。 ・iPadの効果的な活用など、授業改善に向けて授業力向上のために研修を行う。 ・授業改善や授業力向上のために授業公開期間を設ける。授業公開期間だけでなく、日頃の授業参観も活発に行い、互いに学び合う集団作りを目指す。 ・ICT機器を効果的に活用し、資料の提示や板書などを工夫し、授業内容を理解しやすくする。 ・より具体的な授業改善を目指し、年2回の生徒への授業アンケートを行い、授業改善に活用する。 ・資料を読み解く機会を多く取り入れ、資料を比較したり自分の考えを構築したりする体験を大切にす。 ・目的や意図に応じて、内容の中心を明確にして、文を書く力を身に付けさせる。
	算数	<ul style="list-style-type: none"> ○全ての領域で全国平均より高い平均正答率であった。特に、「関数」「データの活用」に関して、多くの生徒が理解できている。 ◆「ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明する」段階は、正答率が低く、無解答率が高かった。記述式の問題では、無解答率が高い傾向が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校・家庭・地域が連携し、自ら学ぶ楽しさ、わかる喜びを実感できる学習指導の在り方」個別最適な学びと協働的な学びの充実を目指して～を研究テーマとして、すべての生徒に分かりやすい学習指導の工夫、授業改善につながる学習指導のための評価面に取り組み、確かな学力を身に付けさせる。 ・授業のユニバーサルデザイン化を進め、基礎基本の定着を図る。 ・「学習タイム」や「ひょうごんぱりタイム」の活用により、基礎基本や学習習慣の定着を進める。
	定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎基本の内容についてはおおむね理解できている。 ◆身に付けた知識を活用して、問題を解決する応用力に課題がある。 ◆学力の定着に二極化の傾向が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校区3校による、交流研修の充実(三校研)。 ・学力向上に向けた小中連携の推進。 ・9年間の学びに向けた小中一貫教育の推進。
	授業等からうかがえる状況(各教科)	<ul style="list-style-type: none"> ○落ち着いた学習態度で積極的に授業に参加している。 ◆宿題だけでなく、自分で考えて自主的に学習することに課題があり、家庭学習の習慣がなかなか身につけていない生徒もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育・道徳教育研修を共に行う機会を持ち、共通認識を深める。 ・小学校教員対象に、中学校での進路指導の実態を説明し、中学校卒業を見据えて、小学校から養うべき学習での姿勢や身に付けるべき力を共通理解する。 ・全国学力・学習状況調査の合同分析を三校研で実施し、その後合同研修会を実施し、学習指導や生活指導に活かす。 ・小中教員の定期的な交流を行い、共通理解のもと学習指導や生活指導に取り組み。 ・学校間連携として授業参観の機会を持ち、教頭間の交流を図り、連携を深める。
	全国学力・学習状況調査の質問の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○「学校の学習時間以外に、普段(月から金)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか」という質問では、「2時間以上」(21%)、「1時間以上、2時間より少ない」(12.8%)、「30分以上、1時間より少ない」(23.4%)と、1日の読書が30分以上している人数が多い。 ◆「学校の授業時間以外に普段、1日あたりどれくらいの時間勉強を読みますか」という質問では、1時間以上学習している割合が1.9ポイント全国平均を下回った。また、2時間以上学習している割合は兵庫県の平均を1.4.9ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「計画的に家庭学習をする習慣を身に付けさせる。」 ・家庭への啓発及び連携により、家庭学習の定着をより進める。 ・「家庭学習の手引き」を活用し、予習・復習の習慣を身に付けさせる。
	学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ルールやマナーを守り、授業や部活動、学校行事に意欲的に取り組んでいる。 ◆家庭学習の習慣が身につけていない生徒がいる。 ◆授業中、分からないことを質問することにためらいを感じる生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「朝読書タイム」の活用などにより、読書の習慣を身に付けさせる。 ・委員会や授業を活用した図書室利用の機会を増やし、本に親しむ。 ・読書の時間を確保したり、図書委員会の活動を通して学級文庫の設置や図書室利用の呼びかけなどを活発に行うことにより、読書のしやすい雰囲気をつくる。
	主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ○1人1台端末を使って各自が問題演習に取り組む学習が定着している。各自で問題の難易度などを選択できたため、個々に合わせた学習ができていた。 ◆発達段階に応じた情報モラル教育やタブレット端末の適切な活用を進める。 ◆ICT機器を効果的に活用した授業実践を増やしていく。 ◆従前からの授業方法にデジタル技術を組み合わせ、iPad等も適切に活用し、個別最適な学びと協働的な学びの充実を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別最適な学習の充実。 ・個別の目標設定。 ・間違いを恐れずに、自分の考えを発表しようとする態度と、それを受け入れられる学級の雰囲気作り。 ・1人1台端末の使い方のルールやマナーを定着させる。 ・教育相談体制の充実を図り、生徒に共感し寄り添う指導の深化をさせ、学びの環境を整え、学習意欲を高める。
	ICT機器を効果的に活用(クラウド環境を活かした授業実施等)		<ul style="list-style-type: none"> ・授業のユニバーサルデザイン化(黒板に共通して明示するもの、プリント文字のフォントやサイズなど)を進め、学習の見直しや学習の足跡がわかる板書計画や授業の展開を図る。 ・調べ学習や意見交流、考察のまとめなどで積極的に端末を活用すると同時に、端末の使い方のルールやマナーを身に付けさせる。
	校内研究の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○「誰もがわかる授業づくり」を目指して、めあての確認と振り返りを各教科で定着させ、学習指導を工夫し、授業改善を進めた。 ◆生徒のつまづきなどへの支援方法など、個に応じた支援を考える必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自分らしい生き方を実現する力を育んでいくために、将来の夢や目標を持つことができるように、キャリア教育の充実を図る。 ・トライやるウィークを通して、地域の仕事に関心を持ち、地域に対して興味や関心を持たせる。
	校内研修の状況	<ul style="list-style-type: none"> ◆全国学力・学習状況調査結果の分析をもとに、基礎基本の定着から活用する力をつけるための取り組みを進める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夢や目標・志をしっかりと持ち、それを語るができるように、キャリア教育や進路学習、トライやるウィークなど、将来について考える機会を大切にし、将来や未来に目を向けさせる。 ・トライやるウィークで地域の職業体験や、ボランティア活動などを通して、地域のことに関心を持ったり愛着を感じたりできるようにする。 ・トライやるウィークを通して、自分の適性などについて考え、進路選択を進める。
	家庭・地域等との状況	<ul style="list-style-type: none"> ○学校教育活動に協力的である。 ○生徒は地域行事へ積極的に参加しており、地域との連携も活発である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「夢や目標・志をしっかりと持ち、それを語るができるように、キャリア教育や進路学習、トライやるウィークなど、将来について考える機会を大切にし、将来や未来に目を向けさせる。」 ・トライやるウィークを通して、地域の職業体験や、ボランティア活動などを通して、地域のことに関心を持ったり愛着を感じたりできるようにする。 ・トライやるウィークを通して、自分の適性などについて考え、進路選択を進める。
	小・中における教科連携等の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○人権教育において、藍中学校区3校で合同の研修を行い、人権意識を高めることができた。 ○情報交換や授業参観、交流授業などを通して、学校間連携を図っている。 ◆小中の連携を深め、継続的な学力向上の取り組みを進める。 	